令和４年度第４回　聖籠町経営戦略推進会議　議事要旨

日　　時　令和４年９月14日（水）15：00～16：15
場　　所　聖籠町役場３階　大会議室
出席委員　宍戸委員（会長）、五十嵐委員、石田委員、小林委員、手嶋委員、細野委員、三上委員
欠席委員　加藤委員、佐藤委員、菅原委員
事 務 局　髙松副町長、高橋総合政策課長、小林総合政策課長補佐、今井主任

次　　第
１　開　会
２　議　事
(1) 聖籠町行財政改革大綱に係る効果検証のまとめについて
(2) 聖籠町経営戦略推進プランの概要について
３　事務連絡
４　閉　会

議事要旨

議事１　聖籠町行財政改革大綱に係る効果検証のまとめについて

○　事務局から資料１「聖籠町行財政改革大綱に係る効果検証のまとめについて」に沿って説明。

会　長　令和４年度ベースで約３億７千万円の効果が出ているとあるが、この使途を示してほしい。行革というのは、そもそも削るのが目的ではなく、「生み出した財源をどのような新しい施策に使うか」という視点が大事であり、それを示すことが、町民への説明責任に資することになる。
　また、これまでの会議で委員から出された意見を踏まえ、町の対応や各課の意見を資料に記載してもらいたい。

事務局　承知した。今年度の分もある程度は示せると思うが、昨年度の分であれば、決算ベースで出せる。

会　長　予算ベースでも決算ベースでも、出しやすい方で結構である。

事務局　今年度については、固定資産税が８千万円くらい減っているので、まずそこに充当している。新規事業としては、子育て支援であれば、タブレット通信料で1,600万円、学習支援アプリで800万円、学校改修で1,600万円などがある。

会　長　そのようなものを一覧表にして、行革の効果が分かるように示していただきたい。

委　員　　削ったお金のうち、町の借金の返済にはどのくらいの割合を充てているのか。

総合政策課長　　借金の返済には充てておらず、借入れを抑える部分と貯蓄に回す部分がある。また、新たな事業にも充てている。

委　員　　町民の中には誤解している方もいて、「行革で削った分が借金返済に充てられているのは面白くない」という声がある。町側の伝え方に課題があるのではないかと思う。

委　員　　今ほどの意見は、この会議の初回に町長が話していた「今までの取組が町民に正しく伝わっていないことを踏まえ、今回の経営戦略を打ち出す」ということにつながると思う。「自分の借金ではない」という町民の気持ちは理解できるが、行政サービスは、その多くが無料に見えたとしても、必ず誰かの負担が必要であり、町民が色々なものとして負担している。町民生活を支えるために借りたお金であることが正しく伝わるような広報が大事だと考える。

委　員　　見直し効果額には、歳出削減と歳入増加の影響が含まれているとのことだが、両者を区別して示した方が分かりやすいような気がする。

総合政策課長　　歳出削減と歳入増加を合わせたものを効果額としているが、必要であれば、資料を修正することはできる。

会　長　　資料の表記はどちらでも構わないが、町民に示す以上は、効果額の算出根拠を押さえておくこと。

議事２　聖籠町経営戦略推進プランの概要について

○　事務局から資料２「聖籠町経営戦略推進プランの概要について」に沿って説明。

会　長　　今回作ろうとしている経営戦略推進プランが、「総合計画の目指すまちづくりを実現するための指針であり、そのために５つの戦略を設定している」ということまでは分かったが、総合計画との関係性がまだ分からない。総合計画には、基本構想があり、それを踏まえた施策が記されているが、一方の経営戦略推進プランは、総合計画に示す施策を進めるに当たっての考え方を示すものではないかと捉えたが、いかがか。

委　員　　この会議では、福祉・未来・子どもへの３つの投資に対して、「どのように財政基盤を築き、事業展開をしていけば目標に向かえるのか」という視点で議論するのではないかと思ったが、経営戦略推進プランと総合計画との関わり方はまだ見えていない。

会　長　　資料では、５つの戦略が同列に結びついているが、この表記に違和感がある。「３つの投資に対して、財源確保・組織力向上の矢印が向かう」形を描けば、少し理解しやすくなると思った。

委　員　　事務局の説明でも、「３つの投資の土台として、財源確保・組織力向

上を考えている」とあったので、これらを同列に並べてしまうと、関わり方が見えてこない。

総合政策課長　考え方は、会長の指摘のとおりである。次回、分かりやすい形で資料を提出する。

また、総合計画の中から優先的・重点的に進めるべき施策をある程度選択して、それらを横断的に見て、より効果的・加速度的に実施できる手法・手段を考えるのが経営戦略と考えている。

会　長　総合計画を横断的に考えれば、町が注力しようとする福祉・未来・子どもへの投資が、色々な施策と関連していることが見えてくる。その上で、財源や組織について考えていくことになる。

委　員　総合計画の重点的な施策は、いつ示されるのか。

総合政策課長　次回以降、戦略ごとに噛み砕いた形で示す。本日の段階では、イメージだけ持っていただきたく、資料に簡単に示している。

会　長　例えば健康づくり支援戦略は、資料では２つ記されているが、委員からの意見に応じ、増えることもあり得るのか。

総合政策課長　今は大枠で捉えており、具体的な意見があれば、追加になったり、形が変わったりしていくと考えている。

委　員　次回から詳細に検討する流れなのであれば、この段階で意見を述べても、実りある議論にはならないように感じる。

会　長　本日は、委員の中で大枠について共通認識を持ったということで、次回からの進め方で何か意見があればお願いしたい。

委　員　今年度末には経営戦略推進プランが完成し、そこから加速度的な展開を図るということなら、当然既に確保している財源があって、それを用いてすぐにスタートできるという前提で考えてよいか。

委　員　これまで捻出した財源を元手に事業を進めるだけでは追いつかないのではないか。それに加えて、企業誘致など、新たな財源をどのように得るかという議論も進めていかないと、町の方向性が見えなくなってくると思う。

総合政策課長　財源の問題も、当然説明する。具体性がなければ、なかなか実現は難しいと思うので、もう少し掘り下げて分かりやすくしたい。

会　長　資料によれば、町では、企業の新増設や工業地帯の整備の促進によって税収を上げることを目指している。したがって、それらも活用して新たな事業展開をするということになると思う。

委　員　子育て環境充実戦略の中で、学力向上について触れられているが、それも町の役割なのか。

委　員　学校としては、子どもの学力を上げることも役割の一つなので、それに向けた取組に力を入れていると思う。今まで、聖籠町は学力が低いという話もあったが、最近は学校が力を入れていて、町民としてはありが

たく感じている。

副町長　毎年行われている全国学力・学習状況調査では、それぞれの小学校・中学校において、全国平均並み、あるいはそれ以下の科目が存在している。学力向上については、何十年も前から保護者からの非常に強い希望があり、その思いに応える形で、町の義務教育を管轄する教育委員会の責任で、取組を進めているところである。

○　事務局から資料３「聖籠町経営戦略推進プランの策定スケジュールについて」に沿って説明。

会　長　次回が大きな山場になる。特に、３つの投資についてブレークダウンしたものが事務局から示されると思うので、よろしくお願いしたい。